



「あーおい、その誰か！
すまないがちよつと手を貸してもらえないだろうか。
うっかり転んだら壁にめり込んでしまったのだ…。
一人では抜け出せないから、後ろからめいっぱい押し込んで欲しい」

「おっ、おい!お前なにをしている!?

公衆の面前で女性の服をめくるとは何事だ!!

こっこの不埒者め、破廉恥なっ♡

これではものすごくいかがわしい状態になってしまってるではないか!

はあん♡ふっ、ふしたらな格好で下半身を露出させられて♡

ふ、このままでは男どもの慰み者にされてしまうのではないがあっ♡「



70
3人B

「むっ、なぜパンツをはいていないのかだと?

ち、ちがうぞ、別に実はスカートの下はノーパンで

そのまま街を徘徊して興奮してたとかでは断じて無いぞ!

というか見るなあ!ああっ、欲望に塗れた男の視線があっ♡

ああんっ♡「

「おいおいおいっ!? おっお前え!! ふっ、服をつ!!

待て待て待て待てっ!! ほ、本気なのかっ!?

本気で私を犯そうというのかっ!? こんな場所だ?!

こ、これは冗談ではすまされななんだぞっ!!

やるからには責任を取ってもらおうからな!?

聞いているのか!? あっ♡と、吐息を大事な所に吹きかけるなあっ♡」

びっ♡

もよ♡
びっ♡
びっ♡

キャ♡

んんん♡
びっ♡

びっ♡

「ああっ♡

何度も何度も妄想はしたがこんな形で私は女にされてしまうのかあっ♡

ま、まさか誰ともわからぬ顔も見えない相手にっ♡

私の初めてを♡こんな惨めな格好でっ♡はああっあああ♡

ふうっ♡ふうっ♡な、なにをしている♡早くなにがじおっ♡

焦らしか!? 焦らしプレイなのかあ!?!♡」



「アッ♡ひんんッ♡きゅ、急に尻を叩くのは反則だぞっ♡
いきなりだと。あうっ♡いいいんッ♡
はふう♡尻があ♡ひりひりすりゅう♡
うぐっ♡ふううんっ♡
わ、私の尻を太鼓みたいは無遠慮に叩いてくれおつてえっ♡
んぎいっ!?♡あッ、口答えは許さないとでもいいたいのかあッ♡
この鬼畜めっ♡カズマにも劣らぬ畜生だなっ♡」

「いだあつ!?ちよ、痛い!!武器か何かで殴ってないか!?
いかに私とて流石に鋭利な金属で直肌はマズいぞ!!
お、怒ったのか!?カズマ!?カズマが駄目だったか!?
いぎッ!!すまない!!いやすみません!!
カズマにも劣らぬ鬼畜はいすぎましたごめんなさいっ!」

「ぶっ…ぶっ…ぶっ…」

ひどいではないか、如何にいたぶるのが醍醐味とはいえ、普通に武器で攻撃するのはマナー違反だろう。相手が私でなければ死んでいたぞ。

……………それで、尻を叩いて終わりか…？もう満足したのか？
「んまっじつならこの程度で終わらせる気は…」

びゅっ
びゅっ
びゅっ

むちゅっ
むちゅっ
むちゅっ

キゅん
キゅん
キゅん

んーっ
んーっ
んーっ

「あっ…♡こ、この感触は…アレだな…!?
ついにアレなんだな!?
噂には聞いていたが…本当に…脈打っていて…♡
熱いんだな…♡はあはあ…♡今からこれが私のナカにつ…♡
そ、そのようなモノで私を屈させられると思ったら大間違いだぞ!!
押し出して跳ね返してやるからな!嘘だと思っなら試してみろっ!!
さあ!早く♡はあっ♡早くうっ♡」



「んんんあつ♡うんうん♡は、はいつてきたあめ♡
おあつ♡んんうん♡き、聞いていたほど痛くないなつ♡
で、でも身体の中を押し広げられているこの感じは♡
なんとも言えない違和感だつ♡
くあつ…♡あつ♡う、動くとチカを擦られて♡
ああつ♡く、くすぐりたい変な感じだ♡んんうん♡」

あつ♡
す♡

んん♡

んん♡

んん♡



「うああっ♡ひいんっ♡や、やめてくれえ♡

おっ、おかしくなるっ♡あたまあっ♡

ゆるっ♡ひてえっ♡

ふああああ♡あああっ♡

あっ!?ま、まだ動きが早くっ♡んきゅうっ♡

オチンポもビクビクしてっ♡ひああっ♡

イツ♡イキそうッ♡イツてしまうっ♡

こんな街中でえっ♡外で壁にハマったままあっ♡」

あーっ♡ひいんっ♡すっ♡

ぐざっ♡

ひんちんっ♡

「おあああああっ♡奥っ♡はげしっ♡イグっ♡
イッ♡イッ♡イッ♡イッ♡
さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡」

どきっ♡

あーっ♡

あーっ♡

「おほああ……………はふう……………はふう……………はふう……………」
「ほ、本当のセックスがこんなにすごいものだったとは……………」
「もう妄想だけで満足なんてできなくなってしまうう……………」
「ああ……………はっ、い、いや、私はこんな快樂に負けたり……………しないぞ……………!!」
「か、カズマに頼まれたお使いがまだあるんだ……………」
「お使いもできないような騎士だと思われては……………」
「出奔中の身とは言え家名に傷が付く……………」
「随分時間を潰してしまつたが、早くここから出よう……………」

「え……………? まだだめ? 人が集まってきたて順番待ちになつてゐ……………!!」
「そ、そんなあつ……………! 私は公衆便所ではないのだぞ……………! ここ、公衆……………便女……………」
「いやっだめだ……………! 欲に負けてはっ……………」
「ひあつ……………あつ……………つ、次がもう挿入……………つ……………」
「ああつ……………すまないカズマ……………」
「ここから抜け出せない以上、お使いはこなせそうにない……………」
「抜け出せないからな……………! 仕方ないな……………! あんつ……………」
「誰かが……………助けてくれるまで……………ん……………ん……………ん……………ん……………ん……………」
「私は……………ああん……………ん……………ん……………ん……………ん……………ん……………」









「あっ！おい、その誰か！
すまないがちよつと手を貸してもらえないだろうか。
うっかり転んだら壁にめり込んでしまったのだ…。
一人では抜け出せないから、後ろからめいっぱい押し込んで欲しい」

「おっ、おい!?お前なにをしている!?

公衆の面前で女性の服をめくるとは何事だ!!

ごっこの不埒者め、破廉恥なっ♡

これではものすごくいかがわしい状態になってしまってるではないか!

はあん♡ふっ、ふしだらな格好で下半身を露出させられて♡

ご、このままでは男どもの慰み者にされてしまうのではないかあっ♡」

「むっ、なぜパンツをはいていないのかだと?

ち、ちがうぞ、別に実はスカートの下はノーパンで

そのまま街を徘徊して興奮してたとかでは断じて無いぞ!

というか見るなあ!ああっ、欲望に塗れた男の視線があっ♡

ああんっ♡」

70
316

「おいしいいっつ!? おっお前え!! ふっ、服をつ!!
待て待て待て待て!! ほ、本気なのか??
本気で私を犯そうというのか?? こんな場所では?
こ、これは冗談ではすまされないうだぞ!!
やるからには責任を取ってもらおうからな!!
聞いているのか!? あっ♡と、吐息を大事な所に吹きかけるなあっ♡」

ふっ♡

もよほ♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡

「ああっ♡
何度も何度も妄想はしたがこんな形で私は女にされてしまうのかあっ♡
ま、まさか誰ともわからぬ顔も見えない相手に♡
私の初めてを♡こんな惨めな格好で♡はああっああん♡
ふっ♡ふっ♡な、なにをしている♡早くなにかしおっ♡
焦らしか!? 焦らしプレイなのかあ!?♡」



「アツ♡ひんツ♡きゅ、急に尻を叩くのは反則だぞ♡
いきなりだと。あうっ♡いいんツ♡
はふう♡尻があ♡ひりひりすりゅ♡
うぐっ♡ふううんっ♡
わ、私の尻を太鼓みたいは無遠慮に叩いてくれおつてえっ♡
んぎいつ!?♡あツ、回答は許さないとでもいいたいのかあツ♡
この鬼畜めっ♡カズマにも劣らぬ畜生だなっ♡」



「いだあつ!?ちよ、痛い!!武器か何かで殴ってないか!?
いかに私とて流石に鋭利な金属で直肌はマズいぞ!!
お、怒ったのか!?カズマ!?カズマが駄目だったか!?
いぎッ!!すまない!!いやすみません!!
カズマにも劣らぬ鬼畜はいすぎましたごめんなさいっ!」

「ぶっ……ぶっ……ぶっ……」

ひどいではないか、如何にいたぶるのが醍醐味とはいえ、普通に武器で攻撃するのはマナー違反だろう。

びゅん、びゅん、びゅん

相手が私でなければ死んでいたぞ。

……………それで、尻を叩いて終わりか……？もう満足したのか？
「まだ……」

むちゅん
キゅん、キゅん

「あっ……こ、この感触は……アレだな……!?
ついにアレなんだな!?

噂には聞いていたが……本当に……脈打っていて……♡

熱いんだな……♡はあはあ……♡今からこれが私のナカにつ……♡

そ、そのようなモノで私を屈させられると思ったら大間違いだぞ!

押し出して跳ね返してやるからな!嘘だと思ふなら試してみろっ!

さあ!早く♡はあっ♡早くうっ♡



「んあああ♡♡♡うぐう♡♡は、はいつてきたああ♡
おあ♡♡んぐう♡♡き、聞いていたほど痛くないな♡♡♡♡♡♡
で、でも身体の中を押し広げられているこの感じは♡♡
なんとも言えない違和感だ♡♡♡
くあ♡♡♡あ♡♡♡う、動くとチカを擦られて♡♡
ああ♡♡♡く、くすぐりたい変な感じだ♡♡ん♡♡♡♡♡♡」

あ♡♡♡♡♡

す♡♡♡♡♡

ん♡♡♡♡♡

ん♡♡♡♡♡

ん♡♡♡♡♡



「んあああ♡♡ううう♡♡は、はいつてきたああ♡
おあ♡♡んぐう♡♡き、聞いていたほど痛くないな♡♡
で、でも身体の中を押し広げられているこの感じは♡♡
なんとも言えない違和感だ♡♡
くあ♡♡あ♡♡う、動くとチカを擦られて♡♡
ああ♡♡く、くすぐりたい変な感じだ♡♡んう♡♡」

あ♡♡

す♡♡

ん♡♡

キ♡♡

ん♡♡



「あっ♡はあっ♡ああっ♡は、早い♡
動くのがっ♡早いぞっ♡んんっ♡ふあっ♡
あ、あそこが擦れすぎてっ♡頭が追いつかない♡
ふうあ♡ひああっ♡ああああっ♡
だ、だめだっ♡あそこぞわがすすぎてっ♡
あっ、頭がおかしくなりそうだあっ♡
こんなの知らないっ♡知らないひいっ♡」

パッパッ

ぐざっ

あっ♡

すす

ひんちん

どっ

んっ♡

パッパッ



「うああっ♡ひいんっ♡や、やめてくれえ♡

おっ、おかしくなるっ♡あたまあっ♡

ゆるっ♡ひてえっ♡

ふああああ♡あああっ♡

あっ!?ま、また動きが早くっ♡んきゅうっ♡

オチンポもビクビクしてっ♡ひああっ♡

イツ♡イキそうッ♡イツてしまうっ♡

こんな街中でえっ♡外で壁にハマったままあっ♡」

あゝ♡

ぐざっ♡

すっ♡

ひんちん♡

「おおあああああっ♡奥っ♡はげしっ♡イグっ♡
イッ♡イッ♡イッ♡イッ♡イッ♡
さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡さっ♡」

アッ♡

どき♡

アッ♡

「おほああ……♡はふう……♡
ふう……♡ふう……♡

ほ、本当のセックスがこんなにすごいものだったとは……♡
もう妄想だけで満足なんてできなくなってしまうう……♡

あはあ……はう、い、いや、私はこんな快樂に負けたり……しないぞ……!?!
か、カズマに頼まれたお使いがまだあるんだ……。

お使いもできないような騎士だと思われるでは

出奔中の身とは言え家名に傷が付く……!

随分時間を潰してしまっただが、早くここから出よう……

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

も、あ、♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「え……?まだだめ?人が集まってきて順番待ちになってる……!?!
そ、そんなあつ……!私は公衆便所ではないのだぞ……!こ、公衆……便女……♡

いやっだめだ……欲に負けてはっ……♡

ひあつ♡あつ♡つ、次がもう挿入っ……♡

ああつ♡すまないカズマ♡

ここから抜け出せない以上、お使いはこなせそうにない♡

抜け出せないからな!仕方ないな!あんつ♡

誰かがっ♡助けてくれるまでっ♡んっ♡待つしかあつ♡

私は♡ああんっ♡たしゆけをっ♡まごりゅらん♡」

「おほああ……♡はふう……♡
ふう……♡ふう……♡

ほ、本当のセックスがこんなにすごいものだったとは……♡
もう妄想だけで満足なんてできなくなってしまうう……♡

あはあ……はう、い、いや、私はこんな快樂に負けたり……しないぞ……!?!
か、カズマに頼まれたお使いがまだあるんだ……。

お使いもできないような騎士だと思われるでは

出奔中の身とは言え家名に傷が付く……!

随分時間を潰してしまっただが、早くここから出よう……

び

もよ、もよ

キ、キ、キ

ム、ム、ム

ム、ム、ム

ド、ド、ド

「え……?まだだめ?人が集まってきて順番待ちになってる……!?!
そ、そんなあつ……!私は公衆便所ではないのだぞ……!ここ、公衆……便女……!

いやっだめだ……欲に負けてはっ……♡

ひあつ♡あつ♡つ、次がもう挿入っ……♡

ああっ♡すまないカズマ♡

ここから抜け出せない以上、お使いはこなせそうにない♡

抜け出せないからな!仕方ないな!あんっ♡

誰かがっ♡助けてくれるまでっ♡んっ♡待っしかあつ♡

私は♡ああんっ♡たしゆけをっ♡まっ♡りゅらん♡ん♡」

おしまい

び、び、び





















